

分析結果報告書〔4〕 1 / 2

1. 4 水質試料 (TOC)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(か^仆^25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	() 年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析結果>

回数	分析結果 (mg/L) 注1)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目	検出下限値以上 注2)	
2回目		
3回目		

注1) 実施要領5の希釈方法に従って共通試料1を水で20倍希釈して調製した分析用試料中の有機体炭素 (TOC) 濃度 (mg/L) を記入する。記入にあたっては、記入間違いや単位間違い等がないように注意する。

注2) 「分析結果 (TOC)」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注3) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。
注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. TOC分析法 (JIS K 0102の22.1に該当) 2. TOC自動計測法 (JIS K 0102の22.2に該当) 3. その他 ()
分析方法 (原理1)	1. 全炭素と無機体炭素をそれぞれ測定し、全炭素から無機体炭素を差し引き有機体炭素 (TOC) を算出する方法。 2. 試料中から無機体炭素を除去した後、有機体炭素 (TOC) を測定する方法。 3. その他 ()
分析方法 (原理2) 酸化の方式 (二酸化炭素とする方式) 二酸化炭素の定量	1. 燃焼酸化法 2. 高温湿式酸化法 3. 紫外線酸化法 4. 光触媒酸化法 5. その他 () 1. 赤外線分析法 2. 熱伝導度測定法 3. ガス透過膜式熱伝導率測定法 4. その他 ()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()

<測定>

TOC計 メーカー・型式	1. アナリティクイエナジヤパン (1 1. multi N/C シリーズ 1 2. その他 ()) 2. 島津製作所 (2 1. 5000シリーズ 2 2. Lシリーズ 2 3. VCSHシリーズ 2 4. Vwシリーズ 2 5. その他 ()) 3. テクマー・ドーマン (3 1. Apollo9000シリーズ 3 2. その他 ()) 4. 東レエンジニアリング (4 1. TNC-6000シリーズ 4 2. その他 ()) 5. 平沼産業 (5 1. TOC-2000 5 2. その他 ()) 6. その他メーカー () 型式 ()
全炭素の測定 注4) 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	希釈倍率 () 注6) () μ L
無機体炭素の測定 注4) 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	希釈倍率 () 注6) () μ L
有機体炭素の測定 注5) 無機体炭素の除去方法 試料の希釈 試料 (又は希釈試料) の注入量	1. 酸を加えて通気 (ばっ気) 2. その他 () 希釈倍率 () 注6) () μ L

注4) 全炭素と無機体炭素を測定して、計算により有機体炭素 (TOC) を求めた場合には、全炭素と無機体炭素の欄に記入し、有機体炭素の欄は記入しない。

注5) 無機体炭素を除去した後有機体炭素 (TOC) を測定した場合には、有機体炭素の欄に記入し、全炭素と無機体炭素の欄は記入しない。

注6) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

分析結果報告書〔4〕 2 / 2

< 検量線の作成等 (全炭素) 注7) >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 () ~ 最大 () mg/L ()
試料の指示値 注8)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注9)	()
検出下限値 注10)	() mg/L
全炭素の分析結果 注10)	1回目 () mg/L 2回目 () mg/L 3回目 () mg/L

注7) 全炭素と無機体炭素を測定した場合 (計算により有機体炭素 (TOC) を求めた場合) に記入する。

注8) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注9) 標準添加法では記入しない。

注10) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

< 検量線の作成等 (無機体炭素) 注7) >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 () ~ 最大 () mg/L ()
試料の指示値 注8)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注9)	()
検出下限値 注10)	() mg/L
無機体炭素の分析結果 注10)	1回目 () mg/L 2回目 () mg/L 3回目 () mg/L

注7) 全炭素と無機体炭素を測定した場合 (計算により有機体炭素 (TOC) を求めた場合) に記入する。

注8) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注9) 標準添加法では記入しない。

注10) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

< 検量線の作成等 (有機体炭素) 注7) >

定量方法 方法 内標準法：内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他 () ()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	最小 () ~ 最大 () mg/L ()
試料の指示値 注8)	1回目 () 2回目 () 3回目 ()
空試験の指示値 注9)	()
検出下限値 注10)	() mg/L
有機体炭素の分析結果 注10)	1回目 () mg/L 2回目 () mg/L 3回目 () mg/L

注7) 無機体炭素を除去した後、有機体炭素 (TOC) を測定した場合に記入する。

注8) 標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注9) 標準添加法では記入しない。

注10) 試料中の濃度 (mg/L) を示す。

< 試料の保存状況 >

保存状況 保存方法等 保存時間 注11) 保存温度	1. 冷暗所保存 2. 保存しない (直ちに分析) 3. その他 () 約 () 時間 約 () °C
---------------------------------	--

注11) 時間単位で記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び 問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--